

牛伏川における砂防事業の現地説明をしました

信州大学農学部学生約20名が牛伏川砂防施設を訪れ、階段工をはじめとする砂防施設を見学しました。

松本建設事務所ではニセアカシア優占林の解消のための林相転換事業※について説明を行い、現在の砂防事業について学んでもらいました。学生からは「現在のニセアカシア優占林の面積はどのくらいか？」などの質問がありました。

土木・環境しなの技術支援センターからは、重要文化財の牛伏川階段工をはじめ砂防施設の特徴や歴史などの説明がありました。

学生達は先人たちの技術力の高さやこだわりに感動していたようでした。また山腹工や植樹の効果とその後の管理の大変さなども学べたのではないのでしょうか。

- 1 日 時 : 令和元年5月31日(金曜日) 9:30~15:00
- 2 場 所 : 松本市内田 牛伏川
- 3 参加者 : 信州大学農学部学生(約20名)



※明治期に荒廃した山腹の土砂流失の対策としてニセアカシアが植えられましたが、根が浅く、倒れやすいため、砂防施設を壊す恐れがあります。そのためコナラなどの広葉樹が優占する林に転換する林相転換事業が行われています。